【この間の各委員から出された意見の整理案に対し第４回審議会で出された主な意見】

資料2-2

コンセプト（計画全体を貫く基本的な考え方）

議論の整理案	委員から出された意見
●区民の生命を守る ●子どもを中心に据えた施策の組み立て ●参加と協働により住民主体で誰もが主人公 ●災害と環境を意識したライフスタイルの定着 ●地域や地区の特性や課題を踏まえた施策展開	◆「区民の生命を守る」というところに、本当に子どもや若者たちが生き抜ける社会をつくるという決意をきちんと入れるべき。自分らしく生きて命が守られるということは最低限で、しかし、やっぱり最大限の価値だろうと思う。【森田委員】
	◆「子どもを中心」とするのか、「子ども・若者」とするのかについて、少し考えた方がよい。世田谷を担ってもらう人たちをどう支えていくのか、そして未来にどうつなぐかという議論が非常に重要であり、「子ども・若者」とするかについて、少し議論の余地がある。【森田委員】
	◆「災害と環境を意識したライフスタイルの定着」、「地域や地区の特性や課題を踏まえた施策展開」を図るには、自主的なコミュニティをどう形成するかが不可欠だと思う。これまでの公共という公と共が一体化している状況の中から、自立的に自らの地域を自分たちが自主的に参加しながら共を外出ししていくような状況をつくる必要があり、地域に即したコミュニティ形成をどう支援していくかが、実は本質的に参加と協働を支えていくと考える。コミュニティの形成を支えるサポートシステムみたいなものをきちんと明示するとよい。【涌井委員】
	◆「参加と協働により住民主体で誰もが主人公」について、誰もが主人公というのはハードルが高い。誰もが主人公であり、誰もがサポーターであるという表現が区民全員に届けるべきメッセージとしてはよいと思う。【羽毛田委員】
	◆「子どもを中心に据えた施策の組立て」について、子どもの施策だけ特に重点的にやり、ほかのセグメントに対して薄くなってしまうという誤ったメッセージに受け取られかねない。各年代層への区政への参加の確保、サービス提供といった、漏らすことがない施策を進めていくということをぜひコンセプトに入れるべき。【安藤委員】
	◆子どもは、子どもだけで元気になれるということはあり得ず、上の世代が元気に生きていることを見ていろいろなことを感じたり学んだりする。区民の生命を守るだけではなくて、区民が全て元気になる、そして、子どもが真ん中にいるだけではなくて多世代が上手に協働するといった内容がよい。【汐見委員】
	◆「区民の生命を守る」というのは、コンセプトとして間違ってはいないが、８年間の計画のコンセプトとして、違和感や物足りなさが残る。ウェルビーイングや健康などの視点も必要である。【中村委員】
	◆コンセプトに、多様性に関わる言葉を一言入れてほしい。例えば、「多様な区民が参加と協働により誰もが主人公になれる」など、多様性という言葉を１つ入れた方が、いろいろな方々が参加できるというイメージが広がる。【江原委員】
	◆「区民の生命を守る」というところに、瞬間的なものではなく継続的なもの、また、身体的なものだけではなくて、心と体、両面という意味合いを入れるべき。【鈴木委員】
	◆「災害と環境を意識したライフスタイルの定着」について、特に近年、災害や環境については、状況に応じて流動的にライフスタイルを変えていく必要があるという意味で、「定着」という文言が果たして正しいのか気になる。【尾中委員】

基本方針（目指すべき将来像）	
議論の整理案	委員から出された意見
◆子どもどまんなか社会 ◆誰一人取り残さない社会 ◆心が豊かになる社会 ◆自然環境と調和した持続可能な社会 ◆全国をリードする区政運営	◆女性に対する施策があまり見受けられないと感じており、若い女性への支援や仕事と子育ての両立への支援といった内容を強調できるとよい。【佐伯委員】
	◆将来像が５つあるのは率直に多いと感じており、せめて３つぐらいには絞りたいと思う。【羽毛田委員】
	◆「子どもどまんなか社会」について、日本にとどまらず、世界で活躍するような人材の育成、また人材育成のための環境整備といった視点を盛り込めるとよい。【羽毛田委員】
	◆基本方針に、外国につながる人々のことを盛り込むべき。日本人が世界に飛び出すとともに、日本には海外、外国につながる方々がたくさん入ってくるのは目に見えているので、その方々がいかに世田谷の社会に溶け込み、なおかつ主体として活動できるかという視点が重要である。【江原委員】
	◆多様性の尊重を考える際には、本人への直接的な支援と本人が参加、活動するための環境整備の両方の視点が重要である。【江原委員】
	◆「全国をリードする区政運営」について、結果としてこうなればよく、わざわざ明記するものではない。社会的大変容に即応できる区政の構造と運営といったようなことを明記すれば、おのずと全国に先駆けた区政運営につながるということになる。【涌井委員】
	◆出された意見を整理する際の哲学がよく見えない。例えば、これから障害者とか外国の方とか、様々な人たちで１つの社会になっていくためにインクルーシブな社会をつくっていく、環境問題などを踏まえて世田谷バージョンで持続可能な社会をつくっていく、子どもだけではなく高齢者まで多世代が協働する社会をつくっていく、いろいろな差別がまだ残っている中で特にジェンダーギャップの解消を図っていくなどといったものが今後の区政の柱の一つとして考えられ、それぞれを理念化して考えるべき。また、「全国をリードする区政運営」についても、例えば、ＤＸという時代にふさわしい新しい区政というものを創造していくなど、哲学的に考えるべき。基本方針については、例えば図にしたときに、この５本で大体新しいものがつくれるぞという図示ができないといけないと思う。【汐見委員】
	◆基本方針の柱の中に、楽しく魅力ある、人を惹きつける、住んでみたくなるようなまちづくりをするというものが入っているべきだと思う。【安藤委員】
	◆アクティブや積極的といったポジティブなまちづくりやコミュニティづくりをする、コミュニティづくりにみんなが積極的に関与するといったものが、１つの柱となるのではないか。その結果として、住んでみたくなるまちづくりにもつながると思う。【中村委員】
	◆新しい出会い、それは人でもあり場所でもあり、そういう新しい出会いがわくわくするようなまちというのが、そして、いろいろな人たちと出会ったり、暮らしたり、あるいは働いたりというようなことが多様にできるところが世田谷らしさだと思う。世田谷らしさとは何だろうというところを強調すると、わくわくするような出会いがいっぱいあるところだと思う。【森田委員】
	◆高齢期になっても新しい出会いの中でやり直しができ、子どもや若者たちがいろいろなチャレンジができるというような、わくわく感みたいなものを支えられるとよい。【森田委員】

将来像の実現に向け分野横断的に重点的に取り組むべき課題

議論の整理案	委員から出された意見
■子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保 ■新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実 ■多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援 ■誰もが活動しやすいまちづくりと地域力の向上 ■脱炭素化の取組みとみどりの保全・創出 ■新たな魅力の創出と世田谷ブランドの向上	◆地域に応じた活力あるまちをつくる、特徴あるまちをつくるといった視点をもう少し明確に盛り込むべき。【安藤委員】
	◆主体を区民個人、また、個人を超えて互いに支え合うコミュニティとして考えるといったように、レイヤーをわけて考えた方がよい。また、日常生活圏、中核圏、そして一体としての世田谷という三層構造のレイヤーを明確にしながら、これまでの議論を整理すべき。【涌井委員】
	◆ワンヘルスという概念は非常に大事であり、こうした概念に基づき物事を連続的に考え整理し、そこから導き出される政策や施策などを包括する考え方が世田谷らしければ、住み続けたくなるまちになっていくのではないか。【涌井委員】
	◆買物に出たい、孫と会いたい、何かを見たい、友達と会いたい、そういうものが個人の意欲を引き出す。意欲を引き出すようなコミュニティにしていかないと、元気な高齢者も生まれないし、介護予防だと言っても効果がない。【中村委員】
	◆ワンヘルスの考え方はコンセプトぐらいのところに掲げてもいいような発想ではないかと思う。【大杉委員】
	◆ウェルビーイングをコンセプトにすれば、自ずとワンヘルスにつながる。【涌井委員】
	◆障害概念や健康概念は変わってきており、心身の機能のみに着目するのではなく、その人が活動できるか、参加できるかということが大きな要素である。そういった意味で、出かける価値があるまちにしていくということが基本になるのではないか。【中村委員】
	◆現在の働き方というのが日本社会にゆがみを与えていると思うので、「多様な働き方の実現」というのは、実はすごくいろいろなところに関わっているのではないかと思う。【江原委員】
	◆世田谷は新しくビジネスを創出する場としても魅力的にすべきではないかというふうに思っており、どこかにそうした観点を入れられるとよい。世田谷らしさとは何かというと、世田谷には９０万人、多様なニーズがあって多様な地域の課題があるので、それだけビジネスチャンスが多様にあるということである。新しいものを創造するような人を育んだり、クリエイティブな人材が外から世田谷に来られるような、そういう魅力を創出するといった視点を強調すべき。【長山委員】
	◆「子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保」と「多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援」は、つながったことだという気がしており、１つのカテゴリーでくくれないか。【汐見委員】
	◆「新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実」とあるが、子どもたちは実際学校にだんだん行かなくなっており、その子たちの学びの場をどこに保障するかは大きなテーマである。不登校の子どもたちの支援ということを本当に考えていかないと、大きな社会的な損失になっていくと思う。【汐見委員】
	◆社会の変化がこれだけ激しくなると、１回勉強したことで一生やっていくことができなくなり、絶えず学び続ける必要がある。乳幼児期から高齢者までの学びを持続的に保障していくような工夫ができないか。【汐見委員】
	◆マクロな視点とミクロな視点が混在しているため、カテゴリーをもう１つ大枠として設けてもいいのではないか。【尾中委員】

将来像の実現に向け分野横断的に重点的に取り組むべき課題

議論の整理案	委員から出された意見
■子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保 ■新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実 ■多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援 ■誰もが活動しやすいまちづくりと地域力の向上 ■脱炭素化の取組みとみどりの保全・創出 ■新たな魅力の創出と世田谷ブランドの向上	◆地域力の向上というのは、誰一人取り残さない、みんなで生き残っていくための動きというか手段だと思う。また、子どもどまんなか社会の実現に向けても、地域力の向上は重要である。【羽毛田委員】
	◆課題解決を図るためのモデルとして、二子玉川や下北沢、三軒茶屋などの具体的な場を例示し、議論するといった進め方も必要ではないか。市民が世田谷らしさを感じ、世田谷に住んでみたいなと思うのは、下北沢に行ったり二子玉川に行ったりして、世田谷ってすごいよなという感覚を持っているからだと思う。そういうムーブメントをちゃんと大事にしていかないと、世田谷全体のクオリティは上がっていかない。【涌井委員】
	◆地域や地区の特性を踏まえたまちづくりを深めていくと、同じ区内に住みながらも他地区の取組みへの理解や関心が低くなってしまう可能性もあるため、地域の特性を高めていくとともに、そこをつなぎ世田谷としての一体性を保つような考え方や取組みも明確にしておくべき。【安藤委員】
	◆ほとんどの子どもたちは、一日の時間の半分を学校で費やしており、保育園などでは、半分以上の時間を費やしている。そのため、大半の時間を費やす施設の中でどのようなウェルビーイングを実現するかということを考えていく必要があり、学校の改革など、何か新しいものを組み込んでいくことが世田谷の新しい姿を見せることにつながる。【鈴木委員】
	◆医療モデルから社会モデルへ、そして、社会モデルの一歩先を目指すべき。その中で、意欲の醸成、新しい出会いをつくるというわくわく感、いろいろなことを自分で選べる選択がキーワードになると思う。【鈴木委員】
	◆今、ものすごく断絶というか、孤立がすごく強くて、街と街、地域と地域、家庭と家庭が孤立しており、コミュニケーションや関係性の回復が必要である。赤ちゃんから高齢者まで、ずっとみんながわいわい語り合っていく、あるいは関わり合っていくというようなことの中で、健康度の高い暮らし方を得られるとよい。【森田委員】
	◆ベーシックサービスをきちんと守っていくことは重要であり、ベーシックなサービスをきちんと確保するということが、一番経済的に苦しい層の人に行き届くことではないかと思う。絶対に世田谷区は一定水準を落とさないという気持ちでやっていただく。これはお金もかかるし、新規政策として取り上げられることはないと思うが、守るべきこととして守ってほしい。【中村委員】
	◆ベーシックサービスは、貧困対策として位置づけるものではない。区民であれば誰でも受けられるということが、非常に屈辱感なくみんなが受けられるということにもつながる。【中村委員】
	◆ダイバーシティというのはトレランスである。施策が重なったりすることなどを当然だと思える弾力性をどれだけ行政の構造の中に持てるかが、一番大きなポイントだと思う。【涌井委員】
	◆こども食堂には、地域のいろいろなおじいちゃん、おばあちゃんたちが来ている。何か孤独感、孤立感を感じている人たちが、ここに来ると、自分も役に立てるという場を無数につくっていかなければいけない。子どもの減少に伴い不要となる保育園などの施設を活用し、新しい縁づくりのための取組みを進める必要があるのではないか。【汐見委員】
	◆社会資本を単なる一目的の社会資本にしないで、可変的な社会資本にするということはすごく大事なことである。総点検していけば、せっかくの税金で投資した公共施設というものが、多重の機能を持ったものに変わっていく。【涌井委員】

計画推進にあたって重視すべき考え方など	
議論の整理案	委員から出された意見
●ＤＸ ●情報発信 ●参加と協働 ●人材育成 ●ＳＤＧｓ ●働き方改革	◆日常生活圏域、地区、より広域な地域、区全体といった階層性を意識して計画推進にあたっていくべき。【中村委員】
	◆日常生活圏、中核圏、そして一体としての世田谷という三層構造のレイヤーを明確にしながら、これまでの議論を整理すべき。【涌井委員（再掲）】
	◆区民に現在計画がどのような進捗状況にあるのかということが伝わるような評価の視点が必要になってくるのではないか。また、ある程度きちんとしたチェック体制についても考えておくべきではないか。【大杉委員】
	◆区職員が日頃から自らの業務を振り返り、よりその精度を高めていけるよう、調査研究をきちんとできるような体制づくり、また、人材育成が必要である。【大杉委員】
	◆多様なつながりが区内外でしっかりと出来上がっていく、そうしたつながりを持てること自体が世田谷の魅力であり、連携という視点は重要である。【大杉委員】
	◆計画に掲げる政策の時間計画が必要であり、８年間の中でどう進めるのか、優先順位を含めて整理をする必要がある。【江原委員】
	◆情報発信の前提は、区民の共有財産である文書なり情報が確実に残され、保存されて、それが開示され、ちゃんと利用されていくことであり、情報発信や情報保存、情報の復元について、しっかりと盛り込むべき。【鈴木委員】
	◆「現場主義」や「ボトムアップ」のようなキーワードを入れる必要がある。今後DXにより行政サービスの効率化が図れるようになった際に、より大事になるのは地域住民のきめ細やかな情報収集であり、現地、現場で企画立案をしてもらうという方がよいのではないか。まちづくりセンターに、福祉やまちづくり支援だけではなく、産業も含めた専門性の高い部門も配置し、現場が企画立案していけるとよい。【長山委員】
	◆区の個々の政策、予算措置、事業を決定するにあたっては、提案セクションは所管のミッション達成への効果のみの明示だけではなく、ＳＤＧｓ及びＬＷＣ指標に対し与える影響を予測評価し、その評価を参酌して政策決定するなど、縦割りを排し、複眼思考のシナジー効果を発揮させるべき。【小林委員】